

「ゆーすフェスタ 2016 兼北海道職業高校の祭典」事業報告書

1 事業実施の背景

本事業は、平成 28 年 10 月 16 日に迎える開所 50 周年の記念事業の一つとして、計画したものである。

国立青少年教育振興機構では、平成 22 年から「体験の風をおこそう」運動を全国展開しており、青少年の体験活動の教育的な意義や効果は明らかである。

北海道では、我が国の第一次産業の基地として、多くの農業高校で、次代の食料生産を担う人材の育成が進められている。農業高校で学ぶ子供たちの日常の取り組みを広報し、交流の場が少ないことから、そうした場を設定することが重要である。

また、「ゆーすフェスタ 2016」では、青少年の体験活動を推進するために、様々な体験活動ができる場の設定が必要であるとの考えから、大雪法人ボランティアや道立施設、企業などが様々な体験活動のブースを設置し、子供たちや家族などが体験活動の楽しさを実感する場を設定した。

2 事業趣旨

体験活動の祭典と職業高校の教育成果の発表・交流の場を設定し、青少年教育を推進する。

3 主催・共催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家
北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会

4 事業概要

- ・期 日 平成 28 年 10 月 2 日（日）10:00～15:00
- ・会 場 国立大雪青少年交流の家及びその周辺
- ・対 象 美瑛町民及び近隣市町村の住民
- ・参加期待数 1, 450 名
- ・協力・協賛 協力 北海道教育委員会 美瑛町 美瑛町教育委員会 美瑛消防署 青葉幼稚園 くりの木幼稚園 めばえ幼稚園 どんぐり保育園 緑が丘保育園 下宇莫別へき地保育所 美馬牛へき地保育所 美沢へき地保育所 美田へき地保育所 ルベシベへき地保育所 朗根内保育所 美瑛すずらん大学 おはなし会あいあい ファームズ千代田 北海道岩見沢農業高等学校 北海道美唄尚栄高等学校 北海道新十津川農業高等学校 北海道富良野緑峰高等学校 北海道名寄産業高等学校 北海道旭川農業高等学校 北海道深川東高等学校 旭川医科大学奇術研究会 美瑛町獅子舞保存会 永井商店 剣淵町 剣淵町絵本の館 美瑛デイセンターすずらん アトリエ・トムテ にこにこ・ファクトリー 白金ネイチャークラブ 株式会社雪印パーラー 雪印メグミルク株式会社 サッポロウエシマコーヒー株式会社 株式会社トワニ旭川店 上川管内家庭教育サポート企業ネットワーク「上川 23 ネット」 大雪施設ボランティア
- 協賛 株式会社雪印パーラー 美瑛町観光協会 美瑛町商工会 びえい白金温泉観光組合

5 広報

協力団体を通じたポスター等、ライナー・広報びえい・NHK旭川放送局での広報を行った。

6 参加者人員・類型

参加者 1,651人（来場者1,469人、運営者182人）

7 事業日程・内容

(1) 日程

	10:00	11:30	12:15	14:00	15:00
10/2 (日)		午前の部	ステージイベント ①	午後の部	ステージイベント ②

(2) 概要・運営のポイント

各団体によるブースとステージイベントを交互に実施し、参加者が飽きないようにする。各ブースやステージの協力者とは、密に連絡を取り、スムーズな運営を行った。

また、運営者や高校生、参加者の前泊について、それぞれ交流会や体験会を行うなど、今後の協力や参加に資する企画を行った。

(3) 各プログラム内容

【各ブース】

①「体験の風をおこそう」ブース

北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会による体験ブース。大雪青少年交流の家の七宝焼き、ネイパル厚岸の野焼きパン、ネイパル北見のホタテタワー、ネイパル砂川のバッグタグ作りの4ブースの実施だった。

各ブースとも、多くの参加者でにぎわい、「普段できない体験ができた」との声も聞かれた。



②「ボランティア」ブース

北海道教育大学旭川校と旭川医科大学の学生によるクラフト作りのブース。教育大のブースでは、しおり作りと松ぼっくりを使ったミニツリーづくりが体験できた。医大ブースでは、ペットボトルを使ったアクセサリ作りが行われた。

どちらも、学生の若い力が子供たちをひきつけ、身近な物を活用したものづくりができたとあって、家庭でも実施できるとの声も聞かれた。



③「ネイチャーウォーキング」ブース

白金ネイチャークラブのネイチャーガイドによる施設周辺の散策ブースは、リピーターも多く20名以上の参加があった。

今年は、夏の台風の影響で、主要な散策路が使えない中での実施ではあったが、施設周辺のコースでガイドの進行のもと、楽しめる内容の自然散策ができた。

参加者は晴天の中、大雪の豊かな自然を満喫できた。



④「食育」ブース、「上川23ネット」ブース

雪印パーラーによる「食育」ブースは「バター作り」を「上川23ネット」ブースでは富貴堂による「ブックシェアリング」と「マイ箸づくり」を実施した。

なかなかできない体験ができるとあって、両ブースともにぎわっていた。



⑤「幼児遊び」ブース、「消防」ブース

青少年教育振興機構が進めている「遊んで身に付く36の基本的な動き」を取り入れた遊びが体験できるコーナーには、多くの親子連れが来場し、段ボールを使った遊びを体験していた。

「消防」ブースでは、美瑛消防署による体験として、消防車乗車と放水の体験ができた。



⑥「販売」ブース、「動物園」ブース

販売ブースは、職業高校による農作物や加工品をはじめ、地元美瑛町の美瑛デイセンターすずらんやアトリエ・トムテ、にこにこ・ファクトリーが出店した。

特に高校生の農作物は、安全・安心や低価格で大人気となり、午前中に売り切れるほどの人気だった。

「動物園」ブースでは、千代田ファームからウサギなどの動物が登場し、子供たちがふれあいを楽しんでいた。



【ステージイベント】

⑦午前の部

午前の部は、「美瑛町すずらん大学のコーラス」、「青葉幼稚園の青葉太鼓」、「早寝早起き朝ごはん啓発イベント」が行われ、大いに盛り上がった。

すずらん大学の元気な高齢者のコーラスを聞き、続く青葉幼稚園の幼児たちの元気に頑張る発表をみて、会場からは、大きな拍手が起きた。また、早寝早起き朝ごはん運動のキャラクターが5体登場し、保護者や子供達に早寝早起き朝ごはんの大切さを伝えた。



⑧午後の部～エンディング

午後からは、「旭川医科大学奇術研究会のマジックショー」、「美瑛獅子舞保存会の獅子舞演舞」、続くエンディングでは、スタンプラリーの抽選会とお菓子まきが行われた。

マジックショーでは、学生の上手な進行で、会場からも驚きや拍手が起こっていた。獅子舞演舞では、地元に残そうという有志のみなさんの熱い思いを聞き、迫力ある演舞に歓声が上がっていた。スタンプラリー抽選会では、参加した人々が、様々な協賛品をもらい、お菓子まきを楽しんでいた。



8 評価アンケート

【ボランティアアンケートより】

- ・このようなボランティアは初めてだったが、保護者や子供たち、ボランティアとの交流ができた貴重な体験となった。
- ・子供たちの中には、何度も来てくれたり、友達を連れてきてくれたりする子もいて、うれしかった。
- ・コミュニケーションをとりながら取り組むことができた。
- ・皆さんと交友を図ることの楽しさを知った。
- ・普段できない体験をするので、お客さんが戸惑った際に話しかけた。
- ・幅広い年齢の子供たちと関わるため、年齢やその子に合わせた接し方が必要でどうしたら子供が楽しめるかを考えて行動した。
- ・笑顔や挨拶、話しかけることが大切だと学んだ。
- ・反省の時に、もっとこうすればよかったと考えることがいっぱい、企画をしっかりすればよかったと思った。
- ・押し花をする機会はあまりないので、よい体験がさせられたと思う。
- ・現場の臨機応変な対応や接客を学んだ。
- ・成果はゼミとしてこのような機会ができたことです。大雪に来るまで与えられたことをやるボランティアしか経験してこなかったのも、子供のために考えて、企画・運営するところまでみんなで経験できたことが大きな成果であり、やってよかったと思った。

【職員評価シートより】

〈日程〉

- ・前後に事業、50周年記念事業を挟み、大変タイトな日程でしたがお疲れさまでした。
- ・例年10月第1週の日曜日としており定着してきたのではないかと思います。

〈参加対象・定員〉

- ・問題はありますが、来年度からはアンケートを取ることも検討してはどうか。(内容は負担のない程度にして、居住地、来所者の世代、総合的な満足度、良かったブース、来年設置を期待するブース、その他意見、くらの項目。アンケートを提出するとカンバッチがもらえるなどの景品をつけても良い) 集計データが次年度の参考になると思います。

〈各プログラム〉

- ・ふれあい動物園
パークゴルフ場の芝生、紅葉、馬の風景があっっていて良かった。
- ・ネイチャーウォーキング
毎年参加されている方もいるので、参加者にとっては交流の家ならではのプログラムと捉えられているのではないかと思います。来年は2コース復活で拡大の方向でも良いかと思えます。
担当でしたが、ガイドの方が非常に慣れていて、参加者にも好評でした。
- ・バイキング体験
無料カレーが食堂ホール内にあったと思っていた人がいたため、無料カレーだけ食したいという利用者とバイキングを食べるために食券を購入する利用者で多少混乱があったように聞いています。(食堂の意見も聞いてみては?)
- ・上川23ネットブース
毎年参加者が多く人気ブースです。例年、富喜堂に頼り気味になっているので、もう少し企業ブースを増やしたいところですね。(ふうきどうさんは、気持ちよく来てくださり、毎年ブックシェアリング用の本の寄贈もいただいているので、大切にしたいと考えています。)
- ・絵本のよみきかせ
毎年、音楽談話室のスピーカーを一時的に切断しているのも、来年度への申し送りとしませ)
- ・36の基本的な動きブース
参加者が多く良かったと思います。来年度はもう少しダンボール遊具を増やしたいですね。
- ・消防署ブース
地元の官公署との連携として、非常に良かったと思います。

- 消防車の乗車体験が楽しそうでした。
 - ・交流の家スライドショー
綺麗な動画で内容も素晴らしかったので、ホームページで公開してはどうか。
 - ・バター作り
パーラーさんの協力として実施いただき感謝しています。
 - ・体験の風をおこそうブース
例年忙しい中来ていただいています。今年は施設も少なく残念でした。
 - ・大雪ボランティアによる体験コーナー（遊びリンピック）
体験の風をおこそうブースの縮小に伴い、来年度は拡大を期待したいブースです。
自分たちで計画し運営ができたことへの達成感や充実感が、ボランティアにはあったようです。次年度も、このような形態で進めていけるといいなと思います。
 - ・高校生による販売ブース
とても人気で好評だったと思います。本ブースは今年だけのものになるかと思いますが、これに変わるものとして上川管内の名産品や、食文化のブースを呼ぶことができないかと考えます。（例えば幌加内のそばなど。早めに声をかければ来ていただけたらとの話がありました。）
安くて品質が良いので、今後も人気が出ると思います。次年度以降も参加をお願いしたいです。
 - ・白金森の市場（物販コーナー）
アトリエトムテなど地元で頑張っている施設との協力は今後も必要だと思います。他ブース協力者についてもそうですが、参加してみても感想などをアンケートで聞き取ってみてはどうでしょうか。
 - ・園児の作品展（タビウサギぬりえ）
塗り絵だけではなく、絵などの作品が欲しいと思いました。園側の要望として声のあった、ユースフェスタのために新たに絵を描くのは負担だと思いますが、普段の園生活の中で描いている絵があるのであればそれを展示してもらえないかと思っています。
体育館が華やかな感じになって、良かったです。
 - ・絵本の森（剣淵町）
木の玉プールや木製玩具はとても良いと思います。
 - ・その他
「野焼きパン作り」は、正面玄関そばということもあり、来場者の関心を集めていました。
人員が許せば、職員のお店を出したいです。例えば、今年ブレイクした燻製屋はいかがでしょうか。
- 〈準備〉
- ・今回は前後に大人数の利用団体があり、設置片付けに時間が取れず、職員の皆様にご負担をかけてしまいました。今後は事業準備・片付けも考慮した利用団体との調整を行いたいと考えます。
 - ・館内装飾がとても綺麗でした。当日に向けて、計画的に作りためていて、見事でした。
 - ・体育館にパネルを並べましたが、運搬・設置などの作業がかなり大変なので、パネルを使わないことにしてはいかがでしょうか。
- 〈運営〉
- ・当日は、職員全体で協力し事故もなく運営ができたので良かったと思います。運営支援者（ブース出展者、ボランティア）との交流や、運営上の意見交換などを行える時間があると良いと思いますが、終了後アンケートだけでも取っても良いかと思っています。
 - ・例年は、翌日に片付けとなっていた部分も、団体対応のため当日片付けとなり、大変な作業量となってしまいました。今年は仕方がなかったのですが、来年以降は翌日片付けに戻していただきたいです。
- 〈その他〉
- ・交流の家ならではのブース内容の新規追加、自然体験系（火おこし体験やワイルドの森でのテント展示、家族でのキャンプ入門講座、初めての登山入門講座（ハイキングコースでの実習も含む）などを入れても良いかと思っています。
 - ・館内や館外にも、BGMがかかっていると、雰囲気盛り上がると思いました。

※担当者より

- ・アンケートなどでニーズを把握するのは良いと思う。スタンプラリーと合体で実施できないか。
- ・高校生を含め、様々な連携を大切に次年度の企画ができるとよい。
- ・設置・片付けの効率化については、必要であるとともに、なくしてはいけないものもあるので、負担が少なく効果的な会場設営や展示の在り方を模索する必要がある。
具体的には、展示パネルだが、出演者の待機場所としてはある程度必要である。なくすのであれば、その代替案が必要である。
- ・交流の家ならではのブース出店については、重要なことなので、検討していくべきと考える。ただし、人員配置は厳しい。着ぐるみなどその他の人員配置との兼ね合いとなる。
- ・企業の出店を模索したい。
- ・飾りつけの労力がすごい。職員の負担にならないように考えねばならない。
- ・BGMはいろいろと試験してみたが、うまくいかなかった。BGMを流すと運営上邪魔になるブースもあることから、設備的に（部屋ごとに入り切りできないため）実施が難しい。
- ・ボランティアの企画が続くようになると、人材育成の観点からも大きなことと考える。ボランティアのアンケートからも自分たちの成長を感じ、子供たちにどう働きかけるかを考えている様子が見られるので、人材育成としては成果があったと考える。
- ・前日に宿泊者向けの軽スポーツや読み聞かせのプログラムを実施したが、参加ファミリーからは高評価であった。
- ・前日の高校生やボランティアの交流も意義あるものとなった。

9 事業の成果

体験活動の祭典として、様々なブースがあり、交流のイベントがあり、ボランティアや運営者の成長の場ともなっていることから、目的については、概ね達成できた。職業高校の交流や成果物の販売も成功したといえる。

参加者が来て楽しかったとの思いをもち、体験活動への興味関心をたかめ、またこうした事業への参加へとつながるきっかけづくりになったと考える。

10 事業の課題

ブースの構成がクラフト中心になっていたので、調整を図りながら運営することが必要である。北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会からの出展がそれぞれの施設の事業との関係で少なくなったこともあり、連携を強化していくことも必要である。

参加者が体験でどのように変容したのかは、イベント形式の事業では、看取ることが難しいところもあるが、ニーズの把握を含め、簡単なアンケートを取る工夫が必要である。